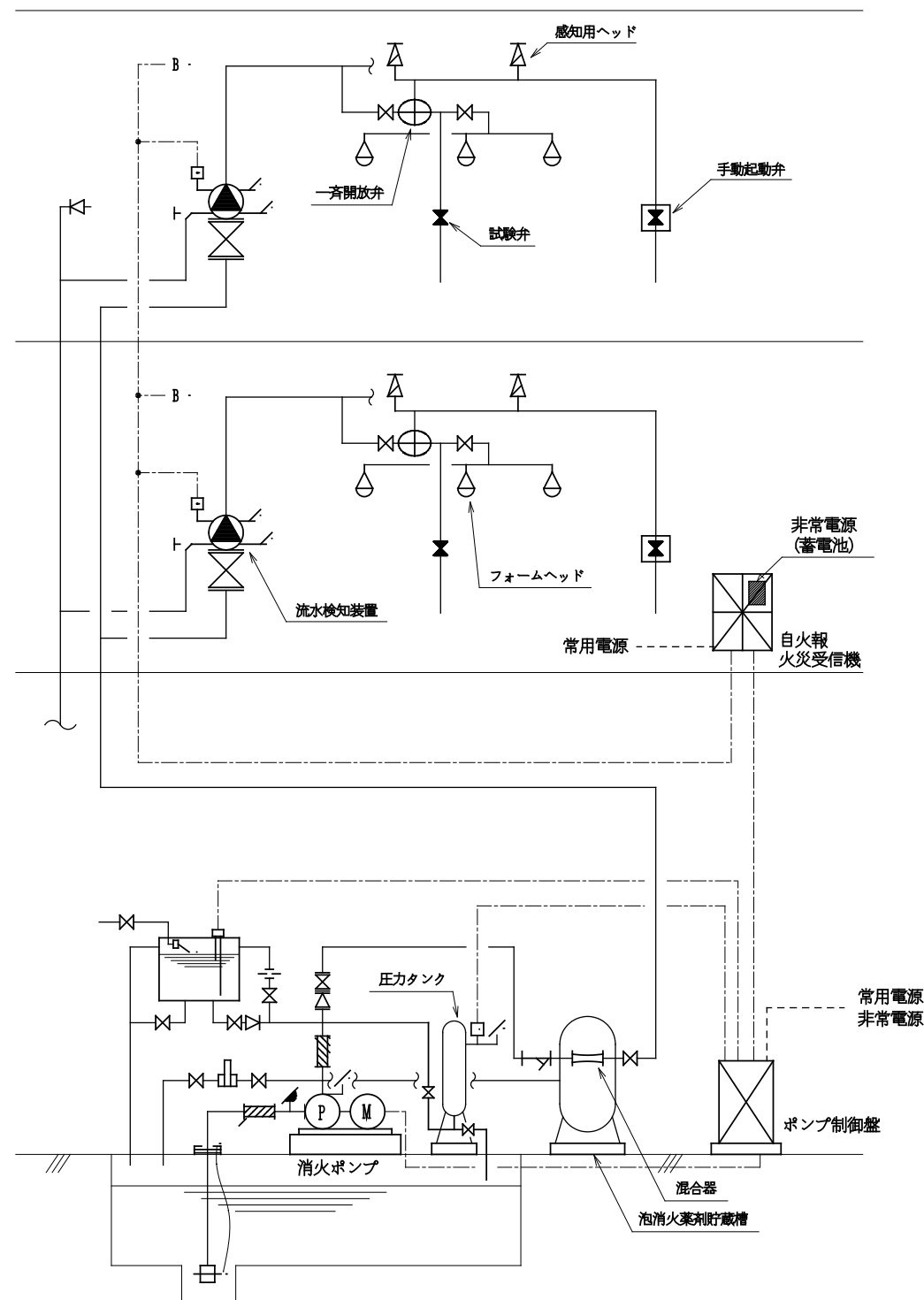


2-3 泡消火設備

2-3-1 固定式泡消火設備



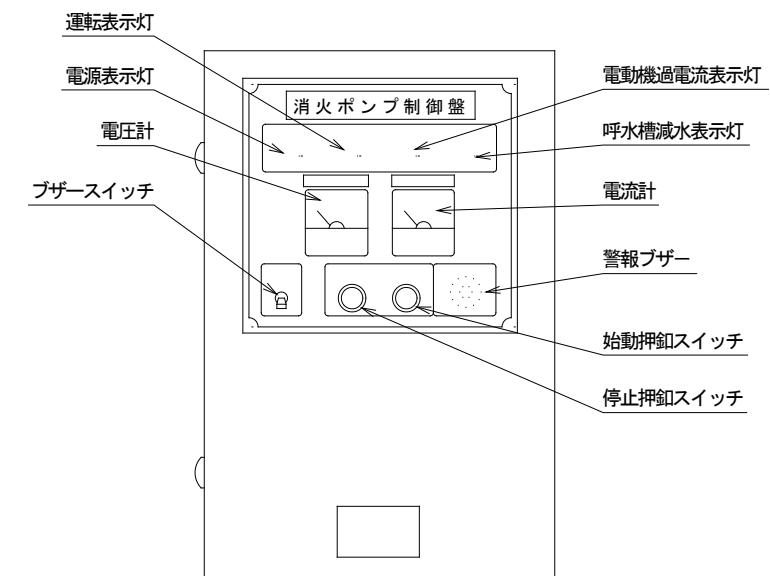
湿式泡消火設備の系統例

停電時

発生する事象	停電後	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火ポンプの電源が遮断され、自動的に非常電源からの電源供給に切り替わります。運転中に停電し一旦電源供給が遮断されても、非常電源に切り替わると自動的に消火ポンプが起動・継続運転します。</li> <li>消火ポンプの非常電源が、非常電源専用受電設備の場合は、停電直後から消火ポンプの起動ができなくなります。</li> <li>消火ポンプの電源が非常電源に切り替わる際に、消火ポンプの電源断の表示および警報が発せられる場合があります。</li> <li>乾式の設備の場合は、非常電源が接続されていないコンプレッサーは作動せず、空気の供給ができなくなるため、流水検知装置の2次圧低下信号が発せられる場合があります。</li> <li>乾式の設備で、長時間コンプレッサーが作動せず、流水検知装置・一斉開放弁の2次側の圧力が大きく低下すると、流水検知装置・一斉開放弁が作動し、泡放射する場合があります。(他社製品の乾式一斉開放弁の場合、一度開放すると自動的に閉止されないものがあります) ◆</li> </ul>
	非常電源供給終了後	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火ポンプの電源が完全に遮断されると消火ポンプが起動できなくなり、また消火ポンプの電源断の表示および警報が、火災受信機などに発せられる場合があります。</li> </ul>
必要な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常電源供給終了後は固定式泡消火設備が機能しないため、人により火災を警戒する等の対応をしてください。</li> </ul>	

復電時

発生する事象	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火ポンプ、コンプレッサーなどの電源供給が自動的に再開されます。</li> <li>長時間におよぶ停電で配管内圧力が下がっている場合、復電により消火ポンプが起動する場合があります。また、減圧開放式の一斉開放弁の場合はポンプ起動の際に瞬間的に一斉開放弁が開放し、ヘッドから水が放水されるおそれがあります。◆</li> </ul>
必要な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動で設備が復旧しますので、対応が必要なことはありませんが、制御盤類の状態(表示灯、スイッチ位置等)が正常であることを確認してください。</li> <li>火災以外で消火ポンプが起動した場合は、ポンプ制御盤のポンプ停止押釦スイッチでポンプを停止してください。</li> <li>自家発電設備を運転した場合の対応は、同設備の取扱説明書によってください。</li> </ul>



ポンプ制御盤の例

注意事項

・通常の監視状態において、頻繁に配管内の圧力が減少する(計画停電の時間より短い間隔で、コンプレッサーが起動する)などの現象がある場合、◆の事象の発生する確率が高くなります。配管、バルブ等からの微少な漏れが考えられますので、修繕をおすすめします。

※非常電源が設置されていない場合もあります。非常電源の有無および種類を確認してください。非常電源の容量は、30分間設備を使用できる容量となります。詳細については、対象となる実設備の取扱説明書などをご確認ください。